

浄土宗方便山善立寺

香 蓮

ko-ren

第 9 号

平成二十九年正月

No.
9

Echo

「72 歳で修行僧になった男」(後編)

名古屋市無量寿院徒弟 河原専修 (78 歳)
善立寺副住職 小路竜嗣 (30 歳)

竜嗣の仏教メモ 浄土宗のお数珠のかけ方
ちょっと和歌山へ 高野山真言宗総本山 金剛峯寺
寄稿 住職晋山十周年を記念して
日常勤行式より ～総回向偈～

善立寺旧本堂 昭和二十七年

写真：三村秀高様寄贈

天下和順



天下和順 日月清明

天下が穏やかで

日も月もさわやかである

時に雨と風も与えられ

天災や疫病も起こらない

国土は豊かに民は安らかに

兵や武器を用いることもない

人々は善を尊び慈しみ合い

互いに敬意を持ち、譲り合う

崇徳興仁 務修礼讓

(仏説無量寿經 祝聖文)
しゆくしやうじゆん

幸多き一年になりますよう、ご祈念申し上げます。

本年もよろしくお願い致します

善立寺



竜嗣の仏教メモ

3ステップですぐできる

浄土宗のお数珠のかけ方

○やってみよう

今回は浄土宗のお数珠のかけ方をご紹介します。一見、難しそうに見えますが、実はとっても簡単！

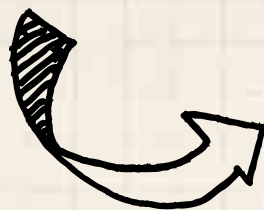
3. 完成！



1. 左手親指に数珠をかける



2. 右手親指を下から差し込む





72歳で修行僧になった男（後編）

無量寿院徒弟 河原専修上人

逝く先が分かっている。
こんなに嬉しいことはない。

善立寺副住職 小路竜嗣 30歳
信州大学大学院工学系研究科卒
(株)リコーに入社し、開発者として勤務
退職後、京都・鎌倉の大本山にて修行
平成25年 増上寺にて加行成満
一般家庭出身として
仏教を分かりやすく伝えたいと努力中

今回の対談は前号に引き続き、道場開設以来、最高齢で僧侶になった河原専修上人です。

今回は河原上人にとって念仏とは何か。限りある人生をいかに生きていくかについてお話を伺います。

行くところが決まっているから、安心できる

副住職小路（以下、小路）

河原さんにとって、浄土宗の教えの魅力ってなんでしょうか。

河原上人（以下、河原）

浄土宗の教えは、南無阿弥陀仏とお唱えし、極楽浄土に往生するというのはつきりしたものです。逝くところがはつきり決まっていること、これはとてもありがたいことですね。逝くところが分からないと、人間はとも不安になります。

以前、静岡にドライブに行っ

た際、いつの間にか道に迷ってしまいました。茶畑の中、どんどんどんどん狭い道入っていく。日が落ちて辺りは真っ暗。ガソリンはもうあとわずか。そのときの気持ちといったら、とてもとても心細かったです。

そんなとき、ライトに照らされた「こちら名古屋方向」の看板を見つけて、どれだけホッとしたことか。

人間、行き先が定まれば、おのずと心が安らぎます。人生についても同じだと思います。

健康であつても、病氣であつても最期には極楽に行ける。そう信じることで、迷わずに、不安にならずに生きていくことができます。

念仏は皆が唱えるもの

小路 河原さんが手を合わせるようになったきっかけはなんだったのでしょうか。



名古屋市 無量寿院様

河原 子供の頃、祖父母や両親が念仏を唱えていました。そんな家族の背中を見て、私も手を合わせるようになりました。

私と同世代の方々にも、手を合わせる姿を子供やお孫さんにぜひ見せてほしいですね。自分が手を合わせないと、自分が亡くなったときも、家族は手を合せてくれないかなと感じています。家族のうち一人でも手を

合わせ、念仏すれば、それが波纹のように広がっていきます。

浄土宗のいいところは僧侶も檀信徒も皆で念仏をするところ。だからこそ、身内の方に念仏を唱えてほしいですね。

毎日がスタート

小路 現在も精力的に活動されていますが、元気の源はなんですか。

河原 朝起きたとき、『今日からまた新しいスタートだ』と思うようにしています。また、歳をとつても、一日一日、違った世界があるのだと感じます。

尾張徳川家菩提寺の建中寺けんちゅうじさんの朝法要に出かけたときの話です。朝焼け空に真っ白な月が出ているのを見て、その美しさに感動しました。いくつになっても感動や驚きの気持ちを大切にしています。

あとは健康であつても、病氣

であつても、『おまかせ』しています。阿弥陀仏に『おまかせ』して生きていく。若い頃は、「出世するぞ!」と自分で船を漕ぐうとしてきました。年を取ったからこそ、『おまかせ』するという気持ちが湧いたのかもしれないですね。

病氣になつても、今日一日を大切に生きていく。そして、その後のことは阿弥陀様におまかせする。それが一番いいのかなと感じています。

最後に

河原 私たちは足ることを知らず怒りもするし、お酒も飲む。その度に反省し、そして念仏をする。その繰り返しです。愚かな人間だから仕方ないことです。

こんな私でも阿弥陀様は救ってくれる。こんな嬉しいことはないです。

河原専修（かわはら せんじゅ）

78 歳

72 歳の時、名古屋市は無量寿院住職の大田弘光上人のもと、出家。

その後、浄土宗僧侶養成機関の教師養成道場に入行。

道場開設以来、最高齢の修行僧となる。

平成 25 年知恩院にて加行満行

現在は無量寿院の徒弟として、

念仏の日々を送る。



日常勤行式より（総回向偈）

願以此功德 平等施一切 同發菩提心 往生安樂國

現代語訳

願わくはこの功德を、全ての方々に平等に施し、私たちも仏教を信じる心を起こし、極樂浄土に往生しよう。

お念仏（南無阿弥陀仏）

は誰のために唱えるのか、
というご質問を受けます。

まず一つに亡くなった方の冥福を祈るため。そして、
今を生きている私たち自身のためです。

このことを表した言葉が、
この総回向偈そうえこうげです。

私達が唱えた念仏の功德を亡くなった方に送る。そ

して、いつの日か身を横た

える私たちも亡くなった

方々が待つ極樂浄土に生ま

るよう『阿弥陀様、そのと

きは私のこともお願いしま

すね』という意味です。

お念仏は「さよなら」で

はなく、極樂での再会を約

束する『またね』の言葉な

んです。

行ってきました

高野山真言宗

総本山 金剛峯寺こんこうぶじ



高野山真言宗の総本山、

金剛峯寺は『高野山』の名

前で知られています。

『金剛峯寺』よりも、『高

野山』と呼ばれるように、

山内に数十もの寺院を抱

え、山そのものがひとつの

巨大仏教都市を形成してい

ます。

険しい山々に守られた高

野山は戦国時代に焼き討ち

に遭うこともなく、戦時中

も空襲に遭うことがありま

せんでした。そのため、高

野山には平安時代の書物や

建物など国宝・重要文化財

が多く所蔵されています。

弘法大師が今も修行を続

けている奥の院には数千、

数万の灯籠が収められ、厳

粛で幻想的な雰囲気を感じ

出しています。近年では外

国からの観光客も多く、日

本を代表する寺院です。



金剛峯寺 大塔

住職晋山十周年を記念して

元善立寺檀信徒会会長

田中正志様よりご寄稿

平成十九年十一月三日

二十六世住職退任式

二十七世住職晋山式

客殿・庫裏落慶式を挙行する。

この日は晋山式にふさわしく絶好の晴天に恵まれ八時四十分、晋山親元しんさんおやもとの三村壽宅ひさしで内仏回向を済ませ、腸

に染み渡るような祝いの花火を合図に親元三村壽宅を出

発し、晋山式練行列を行っ

た。その隊列の長さは約百メートルにも及び、神輿から

流れる古式豊かな雅楽の調べは四方に響き厳粛そのものであり、稚児服に正装

した小学生と園児百二十名の

稚児隊は保護者に手を引かれ

笑顔で行進する姿は一層愛ら

しく、練行列を引き立ててく

れた。沿道は檀家の人々で

いっぱいとなり、祝いの拍手

と歓声があがり、これに応え

て会釈する新命（新しい住職のこと）の姿は凛々しく檀家

一同は我が菩提寺を託せる

満足感でいっぱいであった。

九時三十五分、新命が山門

に到着すると祝いの花火が青

空に響き渡り、いよいよ開門

式である。扉に仕立てた白幕

を開けて参道へ、六地藏前に

並ぶ「慶祝和讃」吉水講善立

寺支部詠唱隊（ご詠歌隊）の

心に染みる、詠唱に祝福され

た新命一行は歴代住職の墓

地・観音堂・薬師堂等の鎮守

法楽を行い、そして回向柱

前で庭儀式を行った。（その

間本堂では住職小路観山上

人の退任式を行う。）階段を

一段一段上り、玄向寺副住

職及び正覚院副住職の生演

奏の古式豊かな雅楽の調べ

は、本堂いっぱいになり鳴り響

き、肅々と本堂へ入堂する新

命の姿は、一層凛々しく参加

者一同は感慨無量であった。

二十六世住職退任式・

二十七世住職晋山式・客

殿、庫裏落慶式は、僧侶

六十余名により厳粛のうち

に挙行され、引き続き、祝

賀会が盛大に行われた。

） 回 顧 （

平成十六年五月檀信徒会三

役と住職、副住職で検討会

議を開催してより通算四年

間、三役が費やした日数は

二百二十四日におよぶ。いく

つかの弊害にも、毅然として

強い信念を以って立ち向かい

目的を達成し、ここに目出度

く晋山式を執り行う事が出来

たことは、住職及び役員は勿

論のこと良識ある檀家一同

の「晋山式をやらなければな

らない」という強い意志と団

結の賜であろう。そして我

が菩提寺が漸く他の寺に劣

らぬ立派な寺として、誇れ

る寺になったことは、私達

役員はもとより檀家一同の

誇りでもあり、後世にも残

る歴史の一頁として永遠に

続くものと信じてやまない。



1. 熊本地震ボランティア活動 2. 薬師・観音祭 二胡の演奏

平成二十八年下半期の活動

盆 施 餓 鬼 会

7月28日、当山最大の定例法要、盆施餓鬼法要を執り行いました。法要では、善立寺開山から現在に至るまでの全霊にご回向致しました。

法話は安曇野市三郷の瑠璃光寺副住職 關恒明上人にお話いただきました。

熊本復興支援活動

①8月、塩尻仏教信和会の托鉢にて頂いた浄財の一部が塩尻市を通じ、益城町へ贈られました。

②9月、当山副住職が浄土宗青年僧18名と共に熊本県南阿蘇村へボランティアに伺いました。

熊本の方々は日々、一步一步復興に向け、進んでいらっしやいます。阿蘇の緑濃くおらかな山々は信州の山とはまた違った美しさがありました。ぜひ

皆様にも観光で足を運んでいただきたいです。(写真1)

チャリティーバザー

11月3日、松本市民祭に合わせ、中信地区仏教青年連盟チャリティーバザーを行いました。多くの方に購入いただき、誠にありがとうございました。売上金は全額寄付致します。

観音・薬師祭

11月6日、善立寺薬師・観音祭を行いました。今年のお楽しみは二胡奏者野田裕子さんによる「心に響く二胡の演奏」(写真2)秋の夕暮れ、本堂に響く二胡の音色は大変趣がありました。今年は80名を越す方々にお参り頂きました。法話は副住職の「あなたの知らない観無量寿経の世界」でした。

今年の回忌法要

1 周 忌	平 成 2 8 年
3 回 忌	平 成 2 7 年
7 回 忌	平 成 2 3 年
13 回 忌	平 成 1 7 年
17 回 忌	平 成 1 3 年
23 回 忌	平 成 7 年

※休日は混み合いますので、お早めにご連絡下さい。

編集後記

本号は「善立寺の歴史を振り返る」として、旧本堂の写真(三村秀高様寄贈)と現住職晋山式(田中正志様寄稿)を掲載いたしました。また対談記事の河原さんとはいつかゆっくりお話を伺いたかったので、今回の対談が実現し、嬉しいかぎりです。

副住職 小路竜嗣